

運転代行業 事故防止のポイント

“よくある事故”の発生場所ごとに注意すべきポイントと対策を解説します。

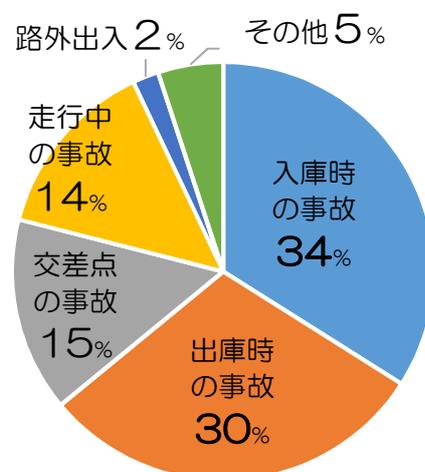
よくある事故がどこで発生しているかご存知ですか？

運転代行業務中の事故のうち、約6割が駐車場(入出庫時)で発生しています。

よくある事故だからこそ、同じ事故を繰り返さないためにも、事故を未然に防ぐためのポイントをおさえておくことが重要です。

よくある事故の傾向と防止策

過去の事故を発生場所別に分析すると、右のグラフのようになります。約6割の事故が駐車場で発生しており、その内訳は、お客様の駐車場・車庫への入庫時は34%、出庫時が30%です。また、31%を占める実車中(交差点・走行中・路外出入)の事故のうち3分の1は随伴車が客車に追突する事故です。このように、過去に起きた事故事例にはいろいろな情報が潜んでいます。「なぜ起こったのか」という事故発生原因を分析して活用することが効果的です。



2022年度 事故発生状況

1. 出庫時の注意ポイント
2. 実車中の注意ポイント
3. 入庫時の注意ポイント

1. 出庫時の注意ポイント

駐車場からの出庫時は、運転代行での事故多発地点です。ドライバーがまだ客車の運転に慣れておらず、また車体感覚をつかめていないことも原因の1つです。それぞれの駐車場での気をつけるべきポイントについて、もう一度確認してください。



特に多い事故

- 柱、側壁、ポールへの接触
- 隣や前後に駐車中の車両への接触
- 段差でバンパー下部を接触



出庫時によくある事故の防止策

① 双方のドライバーで周囲をチェック後、随伴車ドライバーが誘導

客車、随伴車双方のドライバーで客車の周囲の状況を確認します。その後、随伴車ドライバーが出庫の誘導をします。特に、狭い駐車場では内輪差・外輪差による接触事故の危険性が高いので、誘導を徹底しましょう。

② 発進前にライトを点灯

無灯火で駐車場を走行すると、他の車からの発見が遅れ、事故につながる可能性があります。エンジンをかけたら、すぐにライトを点灯する習慣をつけましょう。

③ 念入りにゆっくり

接触事故の中には、もう一度確認するか、ハンドルを正確に操作していれば防げていたはずのものが多くあります。危ないと思ったら、いったん停止して、再確認しましょう。

コインパーキングでの事故

ロック式コインパーキングでは、フラップが下がり終える前に発進して、底面を接触する事故が発生しています。また、フラップが下がったのを確認しても、発進に手間取るうちに一定時間が過ぎてしまい、再度上がってきたフラップに接触した例もあります。随伴車ドライバーは、必ず、フラップを目視で確認してください。

タワーパーキングでの事故

タイヤ幅いっぱい狭いタワー式パーキングでは、ドアの開閉時に壁への接触やハンドルを少し切っただけでホイールを擦ることがあります。

立体駐車場での事故

階を降りる際に、スロープでマフラーやスポイラーを擦ることがあります。お客様が駐車したときには擦らなくても、代行時に乗車人数が増えた場合は、車高が下がるために擦ることがあります。

出庫時の隣の車との事故

車を出すときにハンドルを早く切りすぎてしまうと、並列駐車している隣の車に接触することがあります。

パーキング内での事故

駐車場内が明るい場合、道に出るまでヘッドライトを点けずに走行するドライバーがいます。ライトの光は、自車(客車)の存在を対向車や歩行者に知らせる効果があるので、衝突事故を防ぐためにもヘッドライトは必ず点けるようにしてください。

精算機や土台ブロックに接触

駐車場を出るときに支払いをするため精算機に近づきすぎて、ドアミラーやホイールを擦ることがあるので気をつけてください。特に、左ハンドル車は要注意です。

道路に出る際の事故

明るさの違いや、道路を走行する車や歩行者に気を取られて、障害物に気が付かず、段差や縁石に乗り上げたり、ボディを擦ったりすることがあります。また、駐車場の出口の急なスロープで、フロントバンパー(スポイラー)や車体の底を擦ることもあります。駐車場から道路へ出る際は徐行して、十分に注意してください。



2. 実車中の注意ポイント

慣れない車、慣れない道での走行は、想像以上に危険が多いものです。特に、夜間は視界の悪さが最大の要因となります。安全速度を守り、車間距離を十分に取ってください。



特に多い事故

- わき見、居眠り運転による追突
- スピードの出し過ぎによる追突
- 急停止した客車への追突
- 周りの車につられて発進して客車に追突

実車中によくある事故の防止策

走行中は十分な車間距離！

- 客車ドライバーは、随伴車が接近しているときは、ポンピングブレーキで注意を促しましょう。
- 随伴車ドライバーは、「客車は急停止するもの」と想定して追走しましょう。
- 急ブレーキ！ 急ハンドル！ 急発進！ 急加速！ に注意しましょう。

外車を運転する場合

最近では、外車のほとんどが右ハンドルになってきていますが、ウインカー等の操作は国産車と左右が逆、また、シフトレバーは右手で操作することになるため、慣れないうちは戸惑ってしまうかもしれません。（アクセルとブレーキの配置は、ハンドルの位置に関係なく統一されています）

また、左ハンドル車の運転時は、車の右側が死角になるため、特に右折をするときには注意が必要です。いつもと勝手が違う外車や左ハンドル車を代行するときは、車体感覚を確かめながら、余裕を持って運転してください。



3. 入庫時の注意ポイント

お客様のご自宅に到着し、初めての車庫や駐車場に入庫する場合は、細心の注意を払わなければなりません。随伴車ドライバーは必ず車から降りて、障害物がないことを確認した後、誘導をしてください。



特に多い事故

- カーポートの柱、ブロック、塀、垣根への接触
- 車庫内にある自転車、車両への接触



入庫時によくある事故の防止策

① 必ず随伴車ドライバーが客車を誘導

- 随伴車ドライバーは、駐車する場所をお客様に確認し、障害物や段差などを客車ドライバーに伝えます。夜間の暗い車庫内を照らすために、ペンライトなどを活用し誘導しましょう。
- 随伴車ドライバーが客車を誘導する際は、客車と車庫の壁の間に挟まれたり、バックしてくる客車にあわせて後ずさりし、側溝に落ちるなど、思わぬ事故が起きてしまうことがありますので、誘導時の立ち位置には十分注意しましょう。

② 入庫は慎重に

- 車庫内の障害物と接触するケースがよくあります。車庫内の状態が気になるときは、客車ドライバーも車を降りて確認しましょう。
- 事前に障害物を移動させる場合は、お客様の了解を得てから行いましょう。



③ 駐車が完了しても気を抜かず

シフトレバーはパーキングにし、シートやミラーの位置を動かしていた場合は、元に戻します。窓ガラスがすべて閉まっているか、ライトが消えているかを確認しましょう。（お客様に確認のうえ、必要に応じてドアミラーを格納する）



④ ドアを閉めるまで責任を持って

- 車庫のポールなどにぶつからないように、ドアの開閉を慎重に行いましょう。
- ドアを閉めるときには、手やシートベルトを挟まないよう注意しましょう。

夜間の騒音やヘッドライト点灯など

精算中は、客車も随伴車もエンジンを停止し、ドアの開閉を静かに行ってください。

夜間は特に、周囲の環境を守るために騒音を最小限に抑えることが重要です。また、誘導や指示を行う際は、ハンズフリー型の通信機器などを使用し、小声でのコミュニケーションを心がけてください。これにより、周囲への騒音を軽減しつつ、必要な情報の伝達を行うことができます。

また、停車中の随伴車のヘッドライトの点灯に関して、近隣の方々の不快な思いを避けるために、消灯するなどの配慮が求められます。ただし、他車からの追突を防止するための安全対策は常に確保する必要があります。

なお、一時的な路上駐車は、周囲の安全や交通の流れに影響を及ぼす可能性がありますので、交通ルールや地域の駐車規制に留意してください。

